

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500457		
法人名	有限会社マエダ商事		
事業所名	うめたグループホーム		
所在地	〒037-0022 青森県五所川原市大字梅田字福浦475-13		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コロナ禍により、外出・面会の制限がありますが、併設している保育園の運動会の練習を見学したり、園庭の散歩、花壇やリンゴ園への散歩を楽しみ、四季を感じながら、自然に恵まれた環境で生活できるように取り組んでいます。 また、季節の食材を利用し、楽しく食卓を囲めるよう工夫しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームの周りには保育園やデイサービスセンター、温泉があり、そこでの交流も図られている。今はコロナ禍の為、交流も自粛されていた。以前はお祭りに地域の方に参加してもらったり、地域の行事に参加したりと地域の交流は良好に行われていた。家族の面会も毎月の支払日には行われており、職員も家族に意見や相談を聞いたり、家族から利用者の要望なども出されており、交流も良好である。グループホームの周りは田んぼや山が眺められ、天候をみながら散歩やドライブの外出があり、四季を感じながら生活が出来る環境となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナの影響で理念である地域交流ができていない状況であるが、関連施設職員と情報の共有をし、実践に繋げるようにしている。	玄関や目の届く場所に理念を掲示されており、いつでも確認できるようになっている。会議の場でも理念について振り返る機会もあり、新人職員にも分かりやすく説明し、実践に繋げるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の行事の他、デイサービスの祭りに参加している。また、ホームの夏祭りに家族と地域の方々と交流を図っていますが、現在は直接的な交流は控えている状況である。	向かいの保育園やデイサービスセンター、温泉に来る地域の方々との交流も行われている。以前は、祭りや行事に参加していただいたが、今はコロナ禍で自粛中であるが、繋がりは継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者の状況を伝えながら、地域の方々や、家族と認知症について意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回推進会議を開催している。家族と地域の方々、市の担当者と意見交換をしているが、コロナにより、電話連絡、書面で助言をいただいている。	定期的に開催されている。今は書面でのやり取りだが、以前は市の職員や利用者の家族、地域の方々の参加で開催されていた。会議後は記録にまとめ職員に見てもらっている。	会議後の記録を用意して職員に見てもらっているので、今後記録を管理するうえで、職員のサインも貰う事で更に充実した会議録になる事に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、電話やメールにて連絡を取り合いながら、協力関係を築いている。	会議の際に色々意見を出し、アドバイスや助言をもらい、今後のサービスに活かされている。電話やメールでのやり取りも盛んである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の開催、勉強会を開き身体拘束をしないケアを話し合い、職員間で実践に努めている。	委員会があり、定期的に会議や研修会を行って日々身体拘束をしないケアに職員みんなで取り組んでいる。外部の研修が出来ない今はオンラインで動画を見ながらの勉強会も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に参加し、内部で確認しあう場を設け虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者があり、関係機関に出向き、制度について学び支援に繋がっている。情報についても、職員間で共有しあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を用いて説明し、理解と納得を得たうえで署名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時及び電話連絡で要望や意見を聞き改善に努めている。また、ケアプラン作成時に聞き取りを行い、意見をいただいている。	家族が面会や支払いの際に来た時は、意見や要望を聞きながらその意見を基にケアプランを作成されている。また、家族に聞いてほしい事も事前にノートに書かれ、それを元に聞き取りしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の他、必要に応じて、意見・要望を・提案を聞く場を設けている。	管理者は、会議の場以外でも職員の相談や意見をいつでも聞き入れてくれる様な関係が築かれている。また、年に数回、代表者との面談の場もあり、そこでも意見や要望を聞く場が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況と実績に応じた評価で向上心を持って働ける環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加にて、知識を持ちより良いケアの実践ができるよう取り組んでいる。現在はオンライン研修を主に受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会の参加で交流を持つ機会を設けるようにはしていたが、現状はオンライン研修の参加になっており、直接交流することがない状態である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や不安を聞き、観察しながら不安のない生活ができるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安な点がないか等、聞きながら信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望と現状必要なサービスを支援するために、事前聞き取りから職員と共にサービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあい、生活する場として過ごしていただけるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状、面会制限があるため電話・メールで意見や要望を聞き、支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの床屋・美容院を利用できるよう、双方の状況を確認し、家族の協力も得ながら支援している。	本人が今まで利用されていた馴染みの場所に行けるよう支援している。また、その際は家族の協力も得ながら行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、行動・考えを観察しながら、利用者同士が良い関係で入れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、これからの生活に必要な支援を行い、関係継続に努めていたが、コロナのため現状ではできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話等からも意向を汲み取れるよう努めている。困難な場合も必要に応じ、家族の協力を得る等し本人本位の支援に努めている。	日々の生活の中で利用者の意見や要望を聞き入れるように努めている。困難な時は職員みんなで話し合い、家族にも聞きながら支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、居宅担当者からこれまでの生活歴などを伺い、入所後も本人らしく暮らせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムの把握、体調の変化等、職員同士情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「利用者様連絡ノート」を活用し、その時気になった事や変化等を職員間で共有し、本人・家族からの意向や要望を反映した介護計画作成に努めている。	介護計画書を作る際に「利用者様連絡ノート」を活用しており、日々の様子や変化を記載され、介護計画を作成されている。状態変化時にはすぐに見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化については申し送りして情報を共有し、個別に生活記録や体調記録を行い、状態に変化があれば介護計画の見直しをおこなっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの床屋に行けるよう、家族の協力も頂きながら可能な限り対応しています。コロナにて面会制限中にて、希望に応じて家族とのテレビ電話や、写真データのやり取り等を行うなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連施設との交流から地域での暮らしを安心して楽しめるよう、支援していましたが現状できていない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前受診信状況の把握と、希望の医療機関を確認し対応している。	入居前に行かれていたかかりつけ医の受診支援が継続され、本人や家族も安心されている。また、グループホームの協力医もあり、緊急時に対応されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医へ相談し、状況によっては早急な受診で対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態と状況を把握するため、家族や相談員と十分な情報交換を行い、今後の方向性についても連絡を取り合いながら、安心して治療を受けられるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態・状況について、家族・医療機関と相談し、支援が困難である状況である場合は、方向性について話し合い、本人と家族の要望に沿えるように取り組んでいる。	入居前に本人と家族に重度化についての説明がしっかりとされている。グループホームでの支援が困難になった時は、次の事業所へ入居出来るよう準備し、それまで安心して生活できる様に支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、救急搬送の手順について確認しあい、連絡を取る体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定避難訓練を実施している。推進会議にて、避難の協力をお願いしている。	年2回、日中夜間想定での避難訓練が実施されている。消防とも連絡を取りながら、地域の方やデイサービスセンターや保育園とも協力している。	今後の訓練では水害、地震想定訓練も取り入れる事で、災害時に対応できる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の現状を把握し、声掛けや対応について、職員と話し合いその方に合った声掛けをしている。	利用者に対しての対応や言葉使いに対しては、職員同士でも気を付けながら、気になった事は注意されている。それを管理者も把握し、利用者のプライバシーと尊厳の確保に繋げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活状況と言動から、本人が思いを出せるような声掛けや対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いを大事にし、状況を把握し、その人のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みと着やすさを考え、その人らしさを重視。必要に応じて、理美容の利用を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みの食事を誕生日に用意したり、季節の食材を楽しめるように工夫している。また、本人の能力に応じて食事の準備や片づけを一緒に行っている。	季節の食材を使いながら四季に合わせて食事が提供されている。また、行事食もあり食事が楽しみの一つであるように支援されている。また、準備なども出来る範囲で、お手伝いもしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、栄養バランスを考え、個々の状態に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔洗浄と、定期的な義歯洗浄で清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の記録、個々の排泄パターンの把握から、事前誘導し自立に向けて支援している。	排泄表を準備し、その人の排泄パターンを把握しながら介助されている。排便が出にくい時は、医師や看護師に相談しながら薬や水分などで調整されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分摂取量の確認で便秘しないように働きかけている。便秘傾向である方は主治医に相談し改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴となっているが、状況に応じてその日はシャワー浴対応、希望があればいつでも入浴できる体制をとっている。	週2回の入浴日以外でも要望があれば入浴がいつでも出来るようにしている。また、入浴出来ない時は、清拭や足浴を行い、身体の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合った状況で休めるよう、声掛けや誘導をし、快適に眠れるように寝具も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録で状況と状態を把握。約定の説明書も個人ファイルで管理。変更があったときは、申し送りや記録で職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人と家族からの情報と、暮らしている状況からその人ができる役割を考え、楽しみながら持っている力を生かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状、外出の制限をしている状況であるが、花壇を見ながら、季節を感じられるようにしている。家族と写真の提供をし合い、交流を図っている。	コロナ禍の為外出する機会は減ったが、天候を見ながら外へ散歩しており、気分転換を図れるように支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の意向を確認し、できる限り希望に添えるよう対応しているが、その方の力を考慮し、了承を得たうえで事務所管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に相談し確認を取り、希望時は連絡できるように対応している。また希望により、携帯電話の所持で家族と連絡し合えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、テレビの音量に配慮したり、ソファを配置し各居場所で居心地よく過ごせるよう工夫している。	みんなが集まる共有空間ではテレビや音楽などの音量に気をつけたり、暗い時は電気などの照明をつけ、みんなが過ごしやすい共用空間づくりがされている。また、時間をみて換気も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の状態と状況を考え、それぞれの場所で過ごせるよう、誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある生活用品、写真を飾るなど、本人が過ごしやすい空間を考え工夫している。	入居前に自宅を訪問し、本人の部屋を確認したり家族から必要とするものを準備してもらい、グループホームでも自宅と変わらないように、安心して生活できる居室づくりをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる、わかるを生かせるよう、手すりの設置、トイレやお風呂の目印で安心と安全な生活が送れるように支援している。		